

ばばだげり
JTサンダーズ広島



竹田 英司

ファンの皆さまにとってもそうであろうが、私にとっても吉岡光大選手の引退は想定外だった。決断してから本人は、長年の肩の荷を下ろしたかのように晴れやかだった。

吉岡選手と初めて話したのは昨年4月。プレーオフ決勝で敗れ、



チームメートに胴上げされ、笑顔で宙を舞う吉岡選手



心優しい吉岡選手引退

Vリーグ2位が確定した夜の慰労会だった。エドガー選手の通訳をしていた私は、円卓でたまたま目の前に座っていた吉岡選手に話し掛けた。「選手から見てもエドガー選手はすごい?」

「別格です」。そう即答した吉岡選手も学生時代に世代別の日本代表に選出されるなど、十分にすごい選手と私が知ったのはつい最近のことだ。

初めて陳建禎選手がチームバスに乗った時、「陳さん、ここに座ったらいいよ」と自分の横の席に手招きした優しい吉岡選手。それ以来、2人は移動中も仲むつまじく、まるでやんちゃな兄弟のようだった。

試合終了後のあいさつの際、必ず会場の四方に礼をする吉岡選手の姿は今でも鮮明に思い出す。選手としてコートでの戦いは終わるが、今後はビジネスの舞台で新たな戦いに挑む。礼節を重んじ心優しい吉岡選手なら、どの部署に配属されても成功するだろう。ただ、私はいまだに吉岡選手がいないJTサンダーズ広島を想像できずにいる。(JT広島マネジャー)